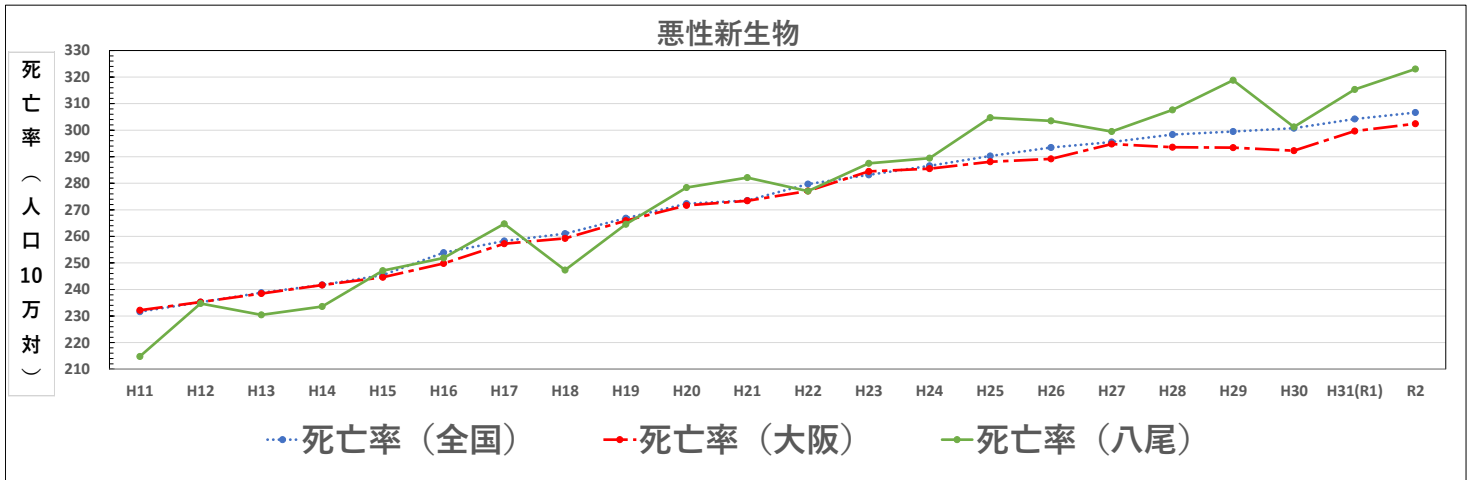
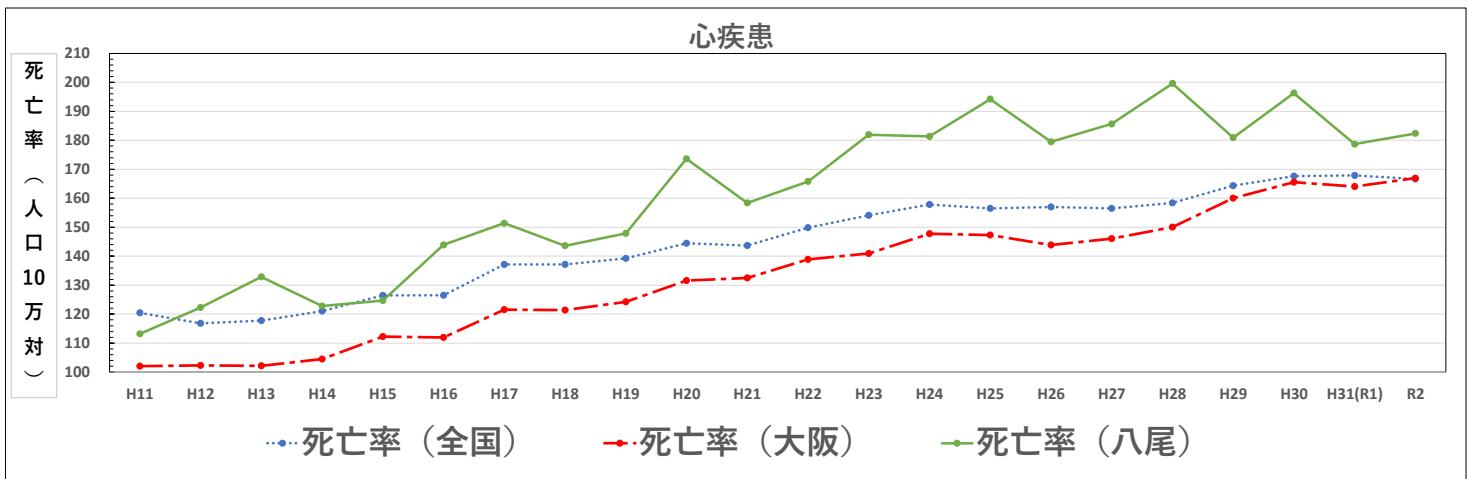


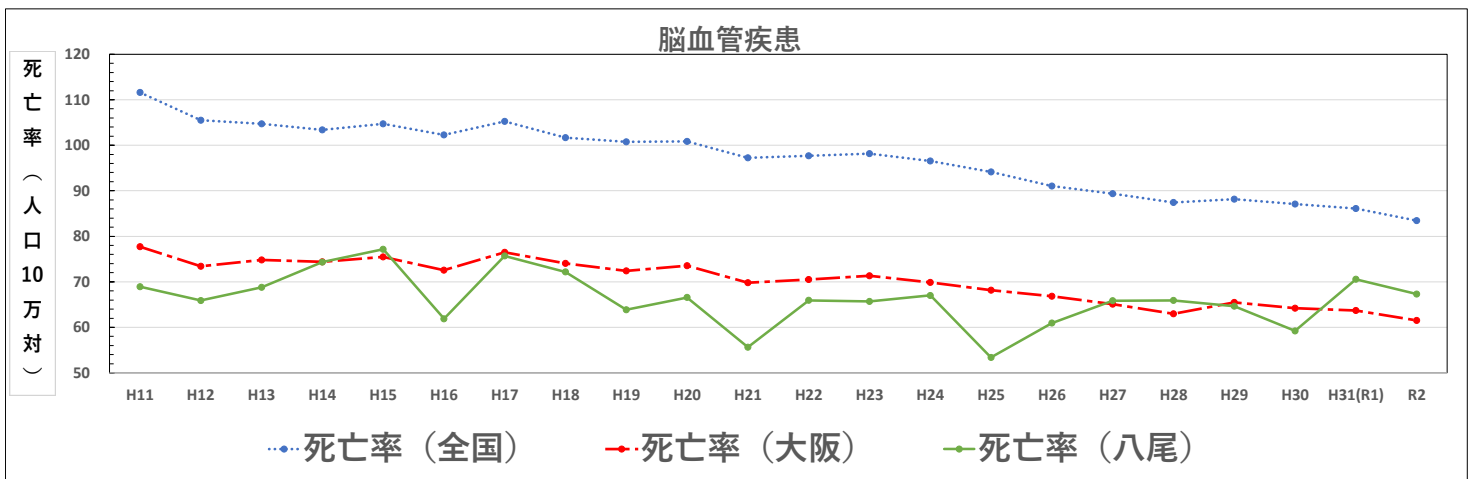
平成11年（1999年）から令和2年（2020年）の悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の死亡率の年次推移



全国、大阪府の死亡率と同じような増加傾向を示しているものの、近年では本市の死亡率が上回っている状況にある。グラフには示さないが、特に肝及び肝内胆管、気管、気管支及び肺、胃の悪性新生物（がん）の死亡率が全国よりも高い傾向にある。（健康まちづくり計画8ページより引用）



全国、大阪府の死亡率を上回る水準で増加傾向がH28頃まで続いたが、以後は横ばいである。グラフには示さないが、本市の心疾患死亡の水準が高い原因は、死因名に「心不全」が多いことによる。一方、急性心筋梗塞の死亡率は全国よりも約半分の死亡率となっている。この結果は、昭和37年以降、60年間にわたり本市で取り組んできた循環器疾患予防対策の成果の現れであると考えられる。（健康まちづくり計画8ページより引用）



大阪府の死亡率とほぼ同レベルで、全国の死亡率を大きく下回る推移を続けている。グラフには示さないが、脳内出血、脳梗塞の死亡率も全国を下回っている。この結果も、60年に及ぶ脳卒中予防の取り組みの成果であると考えられる。（健康まちづくり計画8ページより引用）